

## ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano@bunkyo.ac.jp
研究室	3210 室
在室曜日・時限	新型コロナの影響により、不定期となっています。相談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など (日時・方法)	まずメールにてお問合せください。必要に応じて、Google Meet により、あるいは直接、個別相談をしたいと思います。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論
2020 年度担当科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論、基礎演習A、プレゼミナールB、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>◆本ゼミナールの<u>基本的なテーマ</u>は、「言語あるいは記号によるコミュニケーション」です。</p> <p>最終的な到達目標は、<u>各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、論文を作成する能力を身につける</u>ことです。論文を作成することで、原稿用紙換算で 50 ページ以上のしっかりした文章を執筆する能力を身に付けていただきたいと思います。</p> <p>「卒業研究」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。</p> <p>◆ゼミナールの具体的な<u>進め方</u>は、以下のとおりです。</p> <p>春学期は、コミュニケーションに関する文献を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。</p> <p>その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞、雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスチョンの設定)、原稿執筆のためのアウトライン作成・論文の構成・校正等</li> </ul>

## ゼミナール紹介

担当者名	加藤綾子
e-mail アドレス	説明会等の際に伝達する
研究室	6208
在室曜日・時限	原則として水曜日の昼休み(授業時に確認してください)
個別相談など (日時・方法)	<p>希望者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの聴講(水曜日 11:00~12:00 のうち 15 分程度)</li> <li>・ゼミの相談会(木曜日・金曜日の昼休みの時間帯)</li> </ul> <p>のどちらかに参加をして頂けますと幸いです。</p> <p>アクセス方法等の詳細をお知らせしますので下記 URL (Google フォーム) からお申込みください。(※文教大学のご自身のアカウントにログインした状態で送信をしてください)</p> <p><a href="https://forms.gle/bpHLAbeAbdajfbqQ9">https://forms.gle/bpHLAbeAbdajfbqQ9</a></p> <p>ゼミ選択に関する質問：edu-gakusei まで。</p>
選抜方法	志望理由書、成績、面談をもとに総合的に判断する。
ゼミナールに関連する科目	下記科目
2020 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール、プレゼミナール B、広告企画演習、パーソナルデータ倫理・法制、広告産業論、情報学特殊講義 B、著作権ビジネス論、(インターンシップ)
授業概要	このゼミナールでは、情報・メディア・コンテンツ・広告などに関する基礎的な文献講読を行い、その上で、各自がテーマを定めて調査・分析・報告を行う。本ゼミナールのアプローチは社会科学系の手法に則る。学生は毎回、文献の担当箇所や各自の進捗状況について報告を行う。最終報告の形式は、論文の体裁をとったレポートとプレゼンテーションの双方を予定している。これらの作業を通じて、デジタル化・ネットワーク化などの変化が生じるなかでこの分野の産業やビジネス、企業、消費者、財・サービス、法制度などがいかに変容しているのかを考え、卒業研究につなげていくことを目標とする。

## ゼミナール紹介

担当者名	清水一彦
e-mail アドレス	shimizul@bunkyo.ac.jp
研究室	5404
在室曜日・時限	月曜日 昼休み 3限オフィス・アワー (4限5限は授業) 火曜日 4限以降 (2限3限は授業) 水曜日 昼休み (2限は授業)
個別相談など (日時・方法)	メールでアポをとってください。上記の時間でも急な会議などで対応できないこともあります。 <b>個別相談を受けない学生はゼミ生として選抜しません。</b>
選抜方法	志望書 (希望理由、自己PR など 1000 字以内)、成績、面接。
ゼミナールに 関連する科目	出版論 出版文化論 出版演習 インタビュー・取材演習 記事制作 A
2020 年度担当科目	出版論 出版文化論 出版演習 インタビュー・取材演習 記事制作 A マス・コミュニケーション論 基礎演習 A プレゼミ A
授業概要	<p>将来、出版業界で仕事をしたい学生を対象としたゼミナールです。到達目標は、出版実務の体得と出版学分野での論文を完成させ、出版社の就職試験で勝負ができるようになること。そのために、編集の実践としての雑誌づくりと、出版作品の内容分析、出版の学術的な研究をします。日常的に多量の出版物の購読も課題とします。雑誌づくりや研究は本気で取り組まないと落ちこぼれます。覚悟をした上でゼミナール活動に参加してください。</p> <p>2 年の冬にゼミが決定したら、ゼミ活動を開始します。出版作品の購読・内容分析と出版学の知識を習得しながら、各自が選んだテーマのプレゼンテーションをします。その後、3 年の夏前から冬にかけてゼミ生みんなまで、64~72 ページ程度の本格的な雑誌づくりをします。出版業界のプロに見せても恥ずかしくないレベルを目標します。企画、取材、撮影、デザイン、DTP、執筆など、一連の編集作業をすべて学生自身でおこないます。撮影機材、デザイン用パソコンとソフトは研究室で用意してありますが、資料購入費、取材経費、旅費・交通費などは自己負担となります。</p> <p>ゼミ活動の拘束時間は長くなります。雑誌づくりは週 1 回の授業時間内では終わりません。また、雑誌づくりはチームプレイです。編集技術と同時にコミュニケーション力、責任力、共感力も養います。個人的な都合や気分でゼミを欠席したり、ないがしろにすることは許しません。もちろん、アルバイトよりもゼミ活動を優先させてください。</p> <p>4 年生の卒業研究は、原則として各自が卒業論文を書くこととします。テーマは出版に関連することなら、産業、歴史、コンテンツ論、メディア論など幅広い範囲から各自の興味にしたがって選べます。ただし、学術論文としての完成度を求めます。1 年間じっくり研究に取り組みます。おおよそのスケジュール予定としては、雑誌完成後から 4 年の春にかけて、文献購読、テーマの設定。テーマのプレゼンテーションを経て、夏休み前に第 1 回中間発表会。秋に第 2 回中間発表会。草稿提出。年内に完成稿提出。年明けに研究発表会です。</p> <p>以上を十分に理解してからゼミに来てください。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	水曜日
個別相談など (日時・方法)	ゼミナール見学は、オンラインで行います。日時は10/14(水) 11:45-12:30です。3年生のみなさんのグループ研究の経過報告を行います。見学希望の方は、ZoomのURLをお送りするため、メールにてご連絡ください。 個別相談も、オンライン(ZoomまたはGoogle Meet)で行います。日程調整のため、メールにてご連絡ください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2020年度担当科目	卒業研究、ゼミナールⅠ・Ⅱ、デジタルメディア論、情報学特殊講義A(ネットワークから物事を捉える視座を養う)、インターネットビジネス論、コンテンツ発想法、文献講読、プレゼミナールC、基礎演習A
授業概要	<p>■ 概要</p> <p>本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングというアプローチを学び、みなさんの身の回りにある様々なおもしろいことの分析を通じて、私たちは今、どのような社会に生きているのかを考えていきます。</p> <p>ソーシャルリスニングとは、自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用することです。例えば、2020年度のゼミナールでは、コロナ禍を共通テーマとして、Twitterのデータ分析を行っています。「あなたの番です」というテレビ番組の実況は、放送回を経るにつれてどのように変化していったのか、#自粛警察は何を取り締まっているのか、アフターコロナ時代の東京ディズニーランドはどのように楽しまれているのか、コロナ禍はPC業界にどのような影響を与えたのか、などについてグループ研究を行っています。</p> <p>ソーシャルリスニングは、探索的なアプローチで分析を進めていきます。トライアンドエラーを繰り返しながら、データ分析を楽しんでいきましょう。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ RやGoogle Colaboratory、KH Coderなど、データ分析ツールが使用できる。</li> <li>・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。</li> </ul> <p>■ スケジュール</p> <p><u>3年生</u>：ソーシャルリスニングの流れを学び、毎年12月頃に開催される他大学と合同の研究発表会(教員の所属する学会の研究部会)を目指してグループ研究に取り組みます。4年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。</p> <p><u>4年生</u>：卒業研究と、3年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。</p> <p><u>その他</u>：頻繁にはありませんが、3・4年生合同で、ソーシャルメディアに関連した書籍の輪読や、映画鑑賞などもしたいと思います。</p>

## 竹林紀雄ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@bunkyo.ac.jp
研究室	3411 号室
在室曜日・時限	出校が不定期のため、質問につきましてはメールかオンラインで対応します。
個別相談など (日時・方法)	9月23日(水)～ 個別相談の希望者一人ひとりに、オンラインで竹林が説明します。個別相談で、どのようなことでも遠慮無く聞いてください。大学の他の仕事もありますが、日程調整を行いますので、希望者は、必ず、メールで申し込んでください。
選抜方法	志望者は原則的に受け入れます。ただし、定員を上回った場合は面接や簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	3 セメスターまで ○演習系科目 「映像表現Ⅰ」、「映像ポストプロダクション演習」、「映像技術演習」、 「テレビ企画構想演習」、 <b>※下線の映像技術系の2科目は、担当教員が竹林ではありませんが、映像表現に取り 組む竹林ゼミでは必要不可欠な科目です。</b> 4 セメスター以降 ○演習系科目 「映像表現Ⅱ」、「テレビ番組制作(スタジオ)」、「アニメーション制作C(アート表現)」 ○講義系科目 「ドキュメンタリー論」、「映画史」、「映像表現論」、「映像プロデュース論」 <b>※特に演習科目の「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」。講義系科目の「ドキュメンタリー 一論」、「映画史」、「映像表現論」、は竹林ゼミナールにつながる科目です。</b>
2020 年度担当科目	「卒業研究」、「ゼミナール」、「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「ドキュメンタリー論」、 「放送論」、「テレビ企画構想演習」、「映像表現論」、「映画史」、「映像プロデュース論」、 「テレビ番組制作(スタジオ)」、「プレゼミナールA」、「映像メディア特論」(大学院)、 「情報学特別演習Ⅰ」(大学院)
授業概要	竹林ゼミナールでは、在京テレビ局をはじめ映像業界と連携し、テレビ・映像分野全般のプロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行う。具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、映像作品の制作に取り組む。課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことである。優れた作品は、映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをする。ゼミの課外活動としては、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感する研修である。また、ゼミ生全員参加で毎年実施する合宿形式の研修も行う。今期は、コロナ禍により活動が制約されているが、収束後は、3泊前後で国際的な映画祭などへ参加する予定である。この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行う。このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい方には向かないゼミである。

## ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦
e-mail アドレス	hiyoshi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	5405
在室曜日・時限	質問があれば google MEET で対応します。
個別説明会 (日時・場所)	個別の説明会：なし。質問があれば google MEET で対応します。 (なお、メディア表現学科以外の方は、必ず事前に研究室を訪問の上、面談を受けてください)
選抜方法	定員を超えた場合は、プレゼンテーション等を行う予定です。詳しくは別途連絡します。 (なお、メディア表現学科以外の方がエントリーした場合は、必ずプレゼンテーション等が行われます)
ゼミナールに関連する科目	社会調査士関連科目、メディア効果論
2020 年度担当科目	社会学概論      メディア社会学      社会調査論      メディア調査研究法Ⅲ メディア効果論      プレゼミナールB ゼミナール      卒業研究      大学院
授業概要	<p>本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまなメディア研究を行うゼミです。</p> <p>具体的には、「メディアの内容分析法」という、統計学を用いてメディア・メッセージの分析を行う方法を学びます。また、実際に演習形式で分析を行うことを通じて、実証的なメディア研究の方法を身に付けることも目標とします。</p> <p>春セメでは「メディアの内容分析法」の文献購読を通じて研究方法を学び、秋セメには実際に分析を行います。分析対象は、基本的にはテレビとなります。</p> <p>メディア・メッセージの分析方法である「内容分析」の方法を身に付け、将来的には多角的な現代社会のメディア（たとえば、ソーシャルメディアなど）を専門的に分析でき、社会でその方法を活用（たとえば、メッセージを分析したビッグデータをマーケティングに利用するなど）できるようになることが目標です。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	藤掛正邦
e-mail アドレス	fujikake@bunkyo.ac.jp
研究室	5407
在室曜日・時限	秋：月、水、木. 春：水、木、金.
個別相談など (日時・方法)	個別相談が必要な人は、随時 fujikake@bunkyo.ac.jp へご連絡下さい。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合、文教大学入学後に制作した作品 5 種データを藤掛アドレスへ送付(50 点)+GPA 値(30 点)+志望動機(20 点)を合計した点数で判断し選抜。募集人数はメディア表現学科学生 11 人程度、他学科学生 3 人以内。オンライン授業のため、自宅 PC に Adobe Photoshop&illustrator をインストール済み必須。
ゼミナールに 関連する科目	情報表現デザイン、広告表現Ⅰ、広告表現Ⅱ、デザイン論、プレゼミナール C
2020 年度担当科目	情報表現デザイン、広告表現Ⅰ、広告表現Ⅱ、デザイン論、プレゼミナール C、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、卒業研究
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し論文を作成し口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは雑誌・ポスター・CG 作品など各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を、演習を通じて身につけ、卒業研究作品を発表する。</p> <p>本ゼミナールの到達目標は、キャラクター描画、広報冊子編集、広告デザイン制作を学修し、企業が抱える課題解決のための知識、発想、技術を身につける。</p> <p>春学期、illustrator 技術を身につけ、キャラクターを使ったグラフィックデザインを制作する。藤掛ゼミでは、一般企業との広報活動や販売促進活動を通し、授業で学んだデザインの知識と技術を使い、幅広く広告業界の現場を学んでいる。2020 年度春学期成果として文教大学湘南キャンパス HP、Whats New 10/02「藤掛正邦ゼミの学生 14 名が制作したハロウィン催事ポスターが 10/1～10/31 にかけてラスカ茅ヶ崎で展示」参照。学生たちは、春学期の授業でポスターを制作し、ラスカ茅ヶ崎で行われるハロウィン催事に先駆けて、8 月末に発表会を行う。発表会では、学生は制作したポスターを見せながら制作の意図などを 1 人 5 分間でプレゼンし、ラスカ茅ヶ崎の店長、販促課長、藤掛教授の 3 名が審査員となり、審査を行う。発表会後は、ポスターを特殊シール両面印刷会社に入校するためのデータ加工作業を行う。9/30 は、印刷されたポスターを実際にラスカ茅ヶ崎に展示する作業も行う。ポスター展示に参加した学生は、「プレゼンして、審査、採用される一連の流れを、経験できたことが就活や社会に生かせると思った。これからの人生もこのような場面に遭遇すると思うので今回の経験を肝に銘じて生きていきたい。」「実家帰省中からの出席だったが、発表会自体とても有意義な時間だった。」と感想を述べた。</p> <p>秋学期、Photoshop 技術と写真撮影技術を身につけ、MOA 美術館広報冊子編集のため熱海・日帰り学外授業取材撮影を実施する。11 月、デパート商品の広告デザインを制作する。12 月、ゼミ 1 年間の作品成果を編集、作品ポートフォリオを作成する。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	<a href="https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/">https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</a> を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	<a href="https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/">https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</a> の office hour を確認
個別相談など (日時・方法)	<a href="https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/">https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</a> にて、オンラインでのゼミ見学・説明会・個別相談について確認してください。
選抜方法	選抜方法は面接（オンライン）や GPAなどを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2020 年度担当科目	基礎演習 B、プレゼミ A、インタラクティブメディア概論、情報表現デザイン、クリエイティブ演習、Web デザイン
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を身につける。</p> <p>本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。</p> <p>*詳細は下記を参照してください。 <a href="https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/">https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</a></p>



## ゼミナール紹介

担当者名	新任 B (語学・異文化コミュニケーション)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	
選抜方法	GPA (100 点) : GPA の値を 100 点満点に換算して採点する。
ゼミナールに 関連する科目	
2021 年度担当科目 (予定)	英語 I A、英語 I B、英語 II A、英語 II B、情報英語 B、プレゼミナール B、異文化コミュニケーション論 等
授業概要	2021 年 4 月着任予定。 個別相談は、学科長の井徳、または教務委員の村井が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。